

## 令和5年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和5年8月25日（金）

地 区 澄川町地区

会 場 ときわ総合福祉会館

### <意見交換>

◆市民 ときわ町内会・・・です。

今日、ゼロカーボンの話、聞かせていただきました。1点だけ、私どもの出している要望書の中の、ときわ町内会からお渡ししている3番目、2ページでございますけれども、災害時の避難経路の確保と避難施設の整備という課題です。

これは日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震が想定されまして、このときわ町が高い建物がない指定避難困難地域であり、高齢化率も非常に高くなっております。

その中で、町内会では意識づけとしていろんな行事をやって、皆さんの意識は非常に高いんですけども、何せ避難経路、避難場所がなかなか難しい。特にこの地区であれば澄川小学校と言われてはいますが、前に胆振東部地震のときにバイパスが渡れないということで、停電になったものですから、非常に危険で渡れないということで、歩道橋を設置してほしい。これは道道なので、北海道の道道になっておりますので、ぜひ、それを急いでいただきたいということと、避難指示に関しましては、東日本大震災以降に、新ときわスケートセンターを建設時に、私たちの要望としては、RC構造の避難場所を造ってほしいという要望をしましたが、それがかなわなかったということもあります。

公共施設を造る際には、やはり避難施設も兼ねたものを造るということで今、進んでおりますけれども、ぜひともこのときわ地区から澄川小学校へ逃げる場合の避難経路の確保のための歩道橋、それと施設内で避難場所として何か高い工作物なり、建物、これを整備していただきたいということで再度、要望書にありますけれども、再度要望したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。災害時の避難経路ということで、市側からの回答をお願いします。

◎危機管理室長 市役所で防災を担当しております危機管理室の前田と申します。よろしくお願いいたします。

今、・・・からありました事前要望にあったお話でございますが、要望のほうの回答にも書いてございます。そのお話の再度のご説明になりますが、私どもといたしましても、このバイパスを渡って横断しなければならないということについては、課題として受け止めております。

今、・・・からもお話がありましたが、こちらは北海道が管理する道路ということになりますので、歩道橋を設置するとなりますと、北海道ということになります。そういうことも含めまして、苫小牧市で毎年要望しております重点要望の中に、これ、道道だけじゃなく、国道関係の問題もありますので、そういった国道ですとか、道道の避難路として整備促進、これを市の最重点要望

の一つに位置づけて今まで要望しております。

あわせまして、今、国ですとか、北海道が主体となって、この胆振管内でこういった津波対策を考える。こういった場もございますので、こういった機会を捉えて、こういった皆様のご意見については伝えていきたいというふうに思っております。

それから、2点目のこの地域の中での避難施設の整備、これにつきましても、先ほど・・・からお話がありましたとおり、苫小牧市内では、大きな地震が発生してから10分後に避難を開始をして、そこの避難をしているときに毎秒0.5メートルで移動した場合で考えるときに、小泉の沢から西側ですね、なかなか高い建物が無いということで、その地域において、津波避難が困難な地域というふうに認識をしています。

それで、今、私どもの中では、こういった地域の中にこういったような避難施設ができるかということ、今、庁内で検討をさせていただいております。その際には、専用の施設を造るということではなくて効率もよくありませんので、できることであれば、複合施設、通常使える施設と併せて、津波避難広場が設けられないか、そんなことを今考えています。

なかなかこの検討は少し中長期のお話になりますので、なかなかすぐに今これを造りますということをお話しできないことについては、申し訳ないんですが、複合施設ということ 키워ドに、このときわ町でもそういった施設はございますので、そういったものの有効活用ができないかということを考えていきたいというふうに考えております。

以上です。

○司会 よろしいでしょうか。では、次の方、挙手をお願いします。はい、青い服の方、お願いします。

◆市民 澄川西の・・・と申します。大変失礼ですけど、座らせて質問させていただきたいと思えます。

今年の5月に、今、・・・さんからも話があったように、津波ハザードマップ、これ、頂きまして、前回、手元に持っているよりも被害というのか、浸水箇所が多くなっているということ、ちょっと対比してみました。それを、本題に入る前に、もともと今回のハザードマップの、この算定は何を根拠に作ったのかというのをまず教えていただけませんか。

○司会 津波の、何を基準かということですが、お願いします。

◎危機管理室長 今のお話にございました新しい津波ハザードマップの根拠ですね。根拠になりますけれども、これ、国とか、北海道が改めて分析をした結果なんです、考え方としては、過去の津波の痕跡がございます。苫小牧でいうと、安平川の河口から2キロぐらいのところに津波の痕跡があります。同じように、これが白老町ですとか、伊達市とかそういうのがあります。

こういった津波の痕跡のある1か所の地点から起きた地震によって、それが、今ある津波の痕跡を一度に網羅するような地震、津波とはどういうものなんだろうかということについて、今回はこれ、日本海溝という東北側のほうのプレートと、釧路側のほうにある千島海溝というプレート、ちょっと専門的なお話ですみませんが、そのプレートそれぞれについてシミュレーションをしたんです。

苫小牧については、一番最大となるのは日本海溝ということで、青森県東方沖ですね。11年前の東日本大震災のあのときの津波の、まだ破壊されていない北側のほうのプレートが破壊される

地震が起きたとして、その過去の津波の痕跡を全部網羅するような津波がどうなるだろうかというシミュレーションをしました。

その結果、今まだ壊れていないプレートで、東日本大震災を超えるマグニチュード 9.1 の地震が起きてしまったら、こういう色がつくんです。次に来る地震、津波がこれだという意味ではなくて、過去に起きたことを最悪のケースとして再現するとこうなりますよというものが、今回のベースになっております。

以上でございます。

◆市民 どうもありがとうございました。では、質問に移ります。

私の記憶が正しければ、去年の春先に北海道大学の先生が、NHKのニュースでやっていたんですけど、苫小牧市内の1万年前の地層から津波の痕跡があったというニュースが流れていたんですよ。

そのときに、危機管理室長さんのほうがちょっと出してくれたんですけども、その話を踏まえた去年の10月17日に澄川で防災研修会がありまして、その講師の方が来年、今年の5月には防災マップが更新されますというお話をされたものですから、私のほうから、北大の先生が1万年前の地層から津波の痕跡が見つかったのでシミュレーションをしたら、旧防災マップから内陸に1キロ程度の被害を及ぼす懸念がありますよということで、市もご存じだと思うんですが、そういう発言されているんです。

それで、講師の方に、当然、更新するということは、最新のデータを基にやらなきゃ何も意味ありませんから、それで聞いたのが今の話なんです。

今の室長さんのお話でいくと、北大の先生のその1万年前の地層という話が、今出ていないんですけども、それは加味されなかったのか。されなければ、なぜされなかったのかという理由をお聞きしたいです。

以上です。

○司会 引き続き、津波の関係で、どうですか。

◎危機管理室長 ちょっとまた専門的なお話になるかと思いますが、よろしくお願ひしたいと思いますが、まず、・・・さんのおっしゃった、1万年前とおっしゃったんですけど、私もその北大の先生とはお話をしているんですが、苫小牧の先ほど言った安平川の河口2キロにある津波の痕跡は、1611年です。江戸時代初期なんです。慶長三陸地震というのが過去にあったんですけども、その痕跡なんです。

その先生の分析によりますと、それより以前の津波という痕跡は、正直に言って見つかっていないんです。繰り返しあるかどうか分からないというのが、このえりもから西側の状況なんです。釧路のほうは、逆に言うと、400年周期で痕跡があるんですよ。こちらについては、今ははっきりしているのは、この江戸時代初期の痕跡だという。

先ほど私が申し上げましたとき、この痕跡を基に、これが一番新しい地形になりますので、これを基に今回、国、北海道がシミュレーションをして、私どもはこの5月にハザードマップを改定したという形で、ちょっと1万年というのは、火山爆発だったら1万年前とかとあるんですけど

れども、津波の痕跡は1611年というふうに私は承知しております。

以上です。

◆市民 分かりました。ありがとうございます。

○司会 よろしいでしょうか。

◆市民 はい、いいです。

○司会 では、次の方、挙手をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。ちょっとお待ちください。1回目、発言される方はいらっしゃいませんか、その他。では、一番前の。今、マイクをお持ちします。

◆市民 澄川西町内会の・・・です。

今、取りあえず資料がありますので、ちょっとそれについて2点、確認させていただきたいんですけども、1点は、犬・猫と快適な暮らしをするためのガイドラインということですけども、昨年、・・・が、犬・猫のふんについて荒らされているというふうな町民の方からの意見を受けまして、その対処をということで話をしました。

このガイドラインを見ると、まさにそれに対する一つの解決方法をまとめていただいたものとして、物すごく感銘して見させていただきました。

これを町内の方に配布するというご予定はないでしょうか。町内会として配布すると、会員だけの配布になってしまいますので、それではあまり意味がないと思いますので、澄川のこういう地域の方に、全世帯に配布するというような計画はないのでしょうか。お伺いいたします。

○司会 ペットのガイドラインの関係でご質問でした。よろしいですか、お願いします。

◎環境生活課長 皆様、お晩でございます。環境衛生部環境生活課の武田でございます。

今、お話にございましたこちらの犬や猫と快適に暮らすためのガイドライン、こちらにつきましては、現在、犬や猫を飼っている皆さんはもちろんなんですが、これから飼おうと考えている皆さん、あるいは飼っていない皆さんに、犬と猫と適切に付き合うための考え方をまとめさせていただきました。

今、町内会の皆様にお配りできないかというお話がございました。こちら、もちろんデータとしてお配りすることもできるんですが、私たちとしては、可能であれば、例えば出前講座で呼んでいただいて、この資料の内容について分かりやすくご説明しながら、より皆様に身近な問題として捉えていただきたいというところもございますので、もしお呼びいただければ、町内会の会員の皆様にお話をしながらお配りをするなども考えたいと思っております。

あるいは、特に犬、猫の問題、お困りのエリアを教えていただけましたら、私どものほうで、個人的になりますけども配布をしたり、検討させていただきますので、ぜひ、こうした問題、特にひどいところがございましたらお声がけのほうをお願いしたいと思います。

以上でございます。

◆市民 困っている方というのは、自分の家の前にふんを置かれていってしまうということです。この人が置いていっている。分かる場合もあるんですけども、とても分からないわけですね。

そうすると、それに対する取組としては、地域でこういう方法があるんですよということを、

ぜひ知らしめてもらいたいと思うんです。出前講座など、ちょっと関心のある人に集まってもらって資料を配るのではなくて、この地域に住んでいる方に、こういう点をしっかりと踏まえて、犬・猫のふんに対して、ぜひ自分だけで対処してもらいたいんです。こういうことでもあるんですね。

これを上手にまとめてくださっているのがこの冊子だと思いますので、これをぜひ町内会じゃなくて、この地域にお住まいの方に全員に配っていただいて、啓蒙活動をしていただきたいと思っています。以上です。

○司会 よろしいですか。

◎環境生活課長 町内会全体への配布ということでした。私たちとしても、なるべく多くの皆様こうした考え方を広めたいという思いがございますので、個別がいいのか、あるいは皆様が集まるような場を活用するといいいのか、その方法については今後考えさせていただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

○司会 よろしいですか。

◆市民 ちょっともう一点、お願いします。

○司会 後ほど。皆様に一応聞いてから、はい。その他、皆様のほうから、まだ発言のない方で発言ある方はいらっしゃいますか。よろしいですか。2週目に行きましようか。

それでは、先ほどから手を挙げてらっしゃる方、お願いします。

◆市民 澄川西の・・・と申します。

私もこのまちかどミーティング、10年以上前から参加させていただいて、自然災害に特化した質問をずっと続けています。

市のホームページを読みましたら、ほかの町内会のミーティングも、過去を含め、やはり自然災害のことがずっと結構出ているんですよね、内容は若干違いますけども。

僕なりに、なぜ毎回出て、危機管理室長も一生懸命答弁しているのかなと思って考えたら、勝手ですけどもね。やっぱり我々としては命に関わること、直結する問題ですし、僕個人もふだんから感じているのは、なかなか市のほうでの活動が目に見えてこないんですよ。

ということは、我々は、私どもが質問して、答弁の中身というのは、どちらかというと抽象的。これ、非常に難しい問題ですが、立場が変われば私もそういう発言せざるを得ないんでしょうけども、なかなか一定の時間をいただきたい。中長期的に取り組んでまいりたい。しっかり対応取っていききたい。というような答弁だけなんです。私も帰りながら、何かもやもや、解決したようなしないような、こういう気持ちになりますよね。

それから、必ずこの災害というのは、どこかのタイミングで、苫小牧市として青写真をつくり、それを予算化し、国に補助をいただくならいたたいてつくると。これは、どこかの時点で一度やらなきゃならない。このままだったら行くわけにいかないと思っています。

ですから、今回このマップができたなら、今年中という言い方はちょっと難しいと思いますけども、ぜひ、何がしかの、今の被害のうちの中で苫小牧市としてでき得ると。

例えば去年の令和4年であれば、避難ビル、民間のビルで借り上げができるところをある程度

形としてやりたいというご発言、ほかの町内会のときに発言しているんですよ、市のほうでは、ですけども、そういうものもなかなか見えてこないものですから、何とかそれを目に見えるような形にさせていただきたい。それが一つ、何か青写真で公表していただければいいなというのと。

それともう一つ、やっぱり方法として、広報。今回、これ、三つの町内会で参加しているのはこの人数です。1割どころじゃないです。せっかくの機会で、こういう直接担当の方からお話を聞く機会というのはこの人数しかないので、ぜひ、広報に、新年度で市長のほうで基本方針を載せていますけども、ぜひ、危機管理室という項目をつくって、前年度はこういうことを計画しました。実施はここまででした。今年度は前年度でできないものをやる。新規事業としてこうやるという、市民が活字として見て安心できるような形で情報公開、これができないものかなと思って今回考えたものですから、ちょっと教えていただけませんか。

○司会 自然災害に対する具体的な取組ということで、市側の回答をお願いします。

◎危機管理室長 災害の件につきまして、危機管理室、前田のほうからお答えさせていただきます、なかなか本当に難しいお話ですが、・・・様のおっしゃったとおり、苫小牧は災害事由がすごく多いまちです。火山もあります、海もあります、土砂災害もあります、活断層もあります。

非常にいろんな災害があって、それ、一つ一つ対応しながら出来上がったハザードマップをお示ししたりとかをやっているという状況にありますけれども、今、皆さんがお話のとおり、こういったものをある程度、全体を網羅するような資料というものができないかというのが1件目のご質問だったと思いますけども、なかなかちょっと難しい点はある。

例えばですけども、苫小牧の災害リスク全般というお話でいいますと、こういう防災ハンドブックというのを、これは平成30年に作りまして、もう5年たっているわけで、そろそろ今、作り直そうと思っています。

そういう中に、最新の災害リスク等、あるいは避難する場所ですとか、今、お話があったような、というものをできるだけそういった情報も入れていければなど。これはちょっと本年度、今年、来年ぐらいで、ちょっとリニューアルを図りたいなというふうに思っておりますので、今いただきましたご意見なんかも参考にしながら、少しでもそういったところを入れていければなどというふうに思っております。

それから2点目の、そういう様々な対応を危機管理室はしているんだから、その実績ですとか、今年は何やるのかということ、そういうこともアピールすべきではないかというお話が2点目だったかと思います。

非常にありがたいご指摘をいただいたかな、あるいは、そこに気づくべきお話だったかなというふうに思いますけども、それをどの媒体で周知をすべきなのか。

実は、今年の広報9月号にも、防災の日もありますので、毎年防災特集のページをいただいているんですが、そこもどうしてもその時々で発したいメッセージを中心にやっているの、なかなかそこには掲載できていないという実態はあるんですが、ベストではないかもしれませんが、そういったものをホームページに掲載するですとか、どこかでそういうような苫小牧市の全体的なその動きを見ていただけるような方策についても、ちょっと改めて考えてみたいと思っ

ております。

以上です。

◆市民 はい。

○司会 では、2回目、澄川西町内会の方。

◆市民 澄川西町内会の・・・です。2点目は除雪のお話です。

昨年もこの話をさせていただきました。歩道に除雪した雪が積まれて、歩道の確保が難しいという話をさせていただきました。

昨年は雪が少なく、歩道がしっかり出ていまして、非常に安心いたしました。そして、除雪するほうの方も、除雪した雪を公園のほうまで運んでいただいて、公園に上手に積んでいただくなど、除雪していただく方の努力で非常によい状態だったと思います。

ちゃんとやればできるんだなど、非常にありがたいなと思いましたが、後で、いや、公園の柵が壊れたとか、そういう話が聞こえてきて、ああ、これは市の問題なんだなと思ったから、いや、除雪する側の部署と、それから、公園は公園を維持する側の部署も入る。これ、だから、どっちが責任を取るんですかと、何かそんな話がちょっと聞かれてきて、これは市民の立場からすれば、とにかく両方を併せて、公園課のほうでは上手に排雪できるような施設の整備をしてもらうこと、排雪場所として利用できるような体制を整えてもらうと。

それから、除雪側としては、やっぱりここに壊れやすいものがあるとか、そういうのをよく理解した上で上手に本当に排雪してもらう。この両者の協力があって、歩道の除雪ですか、これが進んでいくと思いますので、ぜひ公園課、それから除雪をするほうと協力で、大きな雪が降っても対応できるように、ぜひお願いしたいと思います。以上です。

○司会 道路除雪に関して、お願いします。

◎維持課道路管理主幹 除雪を担当しております維持課の菅野といいます。よろしくをお願いします。

昨年度、そういうご要望いただきまして、除雪する前に除雪業者を集めた除雪会議というものがございまして、その中でご要望いただいた点について、担当する業者に周知をしております。

こういうところには置かないでほしいとか、例えばこの雪は公園の今言ったようなところに持って行ってほしいとか、そういう細かな指示を直接除雪業者さんの、本当に現場に張りつく担当者の方にそういうお話をしております。

また、今おっしゃられた、持っていくがために公園の柵が壊れてしまったと。こういう場所については、あらかじめ壊れやすい場所に、スノーポールという、こういう赤白のポールを立てて、ここには柵があるよと、だから気をつけて排雪してくださいねというような場所も、今、市内にはございますので、今回壊してしまった場所については、そういうような周知をして、除雪会議でもそうですけども、ここには公園柵があります、ここには車止めがありますよと。物理的にこういうものを立てて周知できるようにですね。ちょっと、去年はたまたま雪がかなり少なかったものですから、うまく排雪のほうができただけですけども、雪がやっぱり多いと、どうしても持っていく先が公園の角だったり、公園の柵だったりということにどうしても雪が除雪されるものですから、そういうところについては、なるべく壊さないように、そういう物理的なものと、周

知するという事で対応してまいりたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○司会 よろしいでしょうか。

◆市民 はい。

○司会 その他、ございますか。お願ひします。

◆市民 錦糸町内会の・・・と申します。

前、用意していた質問項目は、大体中身は・・・さんと同じだったものですから、そちらのほうを省略させていただきます。

ただ、最近、市の施設を利用して特に感じたことというもの、市長もおいでになっておりますので、特に市長に見解をお伺いしたいと思うんですが、ここのところ、いまだかつて経験したことのない猛暑というのがあります、そういう中で、スポーツに親しむ子供たち。総合体育館もそうですし、川沿公園体育館もそうなんですが、換気、大変施設の方も苦勞して、扇風機を数多く入れていただいているんですが、なかなか思うようにならない。中には、具合が悪くなってロビーで休んでいる子も最近は見ます。そういう状況であります。ましてや、それらの施設、雨が降ると雨漏りも結構あちこちでしているんですよ。

そういったこと、つまりスポーツ都市宣言の苦小牧としては、基本的にそういうスポーツ施設に対して、何とか傷が深くないうちにといいますか、まだ被害が少ないうちに手当てをしていったら、そういう考え方というものも今必要だと思っています。

また、聞くところによると、私も一回行ったときにそうだったと思うんですが、図書館のエレベーターも不調だというふうに聞きました。市の施設、金がかかるもの、市民文化ホールという大目玉がありますけれども、それとはまた別にして、被害の少ない小さなうちから積極的に投資をして、大きくならないうちに対策を講じてということも今必要ではないかというふうに思っております。

特に川沿公園体育館というのは以前、一回、市長にお話ししたことがあるんですが、シャッターを全部開けられるんですよ。ところが、今は全く何にも動かない。それで、扇風機を入れているんですけど、子供たちが、私は剣道に関わっているんですけど、もう面をたえず10分置き、15分置きに全部の武具を外して休憩させて、水を飲ませてというような、そういう状況で、今消化していますので、どうかそういったことも含めて、子供たちのスポーツ環境を考えていくという意味で、整備のほうをひとつよろしくお願ひしたいというふうに思っております。

◎市長 そうですね、特に今年は、今年のような猛暑がこれから続くのか、今年の特異な気圧配置だからなのか。ただ、基本的にはこれからやっぱり地球、さっきもゼロカーボンでありましたけれども、地球温暖化が進んでいくということを前提にしなければならないと思っています。

子供たちが今特に使うスポーツの施設等についても、点検をしながら、やっぱり取り組んでいかなければならないと思います。

昨日も高校生2名が熱中症で病院に運ばれました。三、四日前には伊達市で小学校2年生の女の子が熱中症の疑いで亡くなるという、非常にショッキングな出来事もありました。猛暑対策というのは、北海道では今まである意味でノーケアできておりますので、これがこれから続いてい

くとすれば、特に子供たちが利用するところ、あるいは高齢者が利用する施設等についてのことは考えていかなきゃいけないと思います。

今度の議会でも、間もなく議会が始まりますが、そうしたご指摘が、これは、市議はしないとありますが、出てくると思います。特に小学校、中学校の義務教育課程の学校に、道内では、札幌も含めて1件もクーラーがないんですね。

いろんなところで、今、二、三日も釧路の市長から電話があつて、要件は別件だったんですが、やはり小・中学校にクーラー設置という話がかきていて、これが、例えば苫小牧で小・中学校に、空き教室は別として、全部やるとしても数十億円かかります。業務用のクーラー、しかもこれは注文生産なので、今頼んでも多分数年後にしかつかない。

家庭用のクーラーも今、品薄と業者の手薄な状況の中で数か月かかるというふうに言われておりまして、こうした急な猛暑に対する対応が非常に課題になっていくというふうに思います。

結果として、小・中学校については、臨時休校にしたり、授業を短縮にしたり、運動や部活を中止をさせたり、そうした対策しか今、当面はできないと思いますが、やはり子供たちの安心・安全を第一に、教育委員会とも連携しながら、しっかりと、万が一のことがないように取り組んでいきたいと思っています。

スポーツ施設についても、川沿の話は何度もお聞きをしておりますが、やっぱり築30年とか古い施設が多いので、本当は造るときにクーラーをつけていけば一番いいんですけども、当時は苫小牧で公共施設にクーラーが欲しいなんていう話は全くない時代でありましたので、これからの公共施設はやはりクーラーを設置しなければならないし、道立病院の後の施設もついているし、東開交流サロンも非常についていて、新しい公共施設についてはやはりクーラーを必要だなどというふうには考えておりますので、ぜひ、もう少し点検をしながら、優先度の高いところから対策をしていくということを心がけていきたいと思っています。

○司会 はい、よろしいでしょうか。その他、ございますでしょうか。ないようでしたら、3回目。

◆市民 澄川西町内会の・・・です。地域の問題ではないんですけど、ラピダスの関係でちょっとご質問させていただきます。

苫小牧も2014年から人口が減少しまして、2021年には17万人を切ってしまう。これを考えたら、人口減少の歯止めの特効薬というのが、それというものはありません。それも一つの柱としては、やはり企業誘致、人口が増えますと、購買力、税金、いろんなメリットがあると思っています。

今回のラピダスの話が表沙汰になったときに、私も仕事ながら、用地やらアクセス、港はある、空港は近い、水はある、そう考えると、千歳にも会社があったものですから、千歳か苫小牧か石狩か。それで国のほうから現時点で3,300億円です。これ、一般企業といえども、これはある意味で国家プロジェクトに値するような事業だなど。

そうなったときに、私は、勝手ですが、そういえば、岩倉さん、元国会議員で政権党に属していたから、これ、国家プロジェクトであれば、ある程度国が主導的立場になるので、これは苫小牧で8割、9割は決まりだなど勝手に思っていたんです。

そして、いざ蓋を開けてしまうと、千歳だったんです。これ、私、ちょっとびっくりしまして、興味があったものですから、いろんな雑誌やら新聞やらメディア、全部買えるものは買ってチェックしましたら、いろんなことが書いています。

しかし、ただ一つ共通するのは、苫小牧市は土俵にすら上がれなかったと、そういうコメントなんです。これは事実かどうか、単刀直入にお尋ねです。

これを聞いて、大変私はショックでして、本当のあれはどうなのか。これは苫小牧であれば、それこそ岩倉さんの大きな置き土産になったのに。これであれば、もう全然話にもならないなと思ったものですから、まず、1点目として、本当に土俵に上がれなかったものなのか。上がれなかった理由、上がったのであれば、なぜ敗れたのか、1点。

2点目。その、ラピダスの関連企業も複数社あると聞いています。それで、本体に失敗したか、土俵に上がれなかったかは分かりませんが、そちらのほうの関連企業の誘致、この辺について、失敗したのであれば、その辺の反省を踏まえて、どういう戦略で誘致しているのか。苫小牧としては、全て関連企業もお手上げなのか。この辺の事情を、興味があるものですから、お聞きしたいと思います。

以上です。

◎市長 ラピダスは苫東も候補には上がっていました。しかし、結果として、やはり空港に近い、あるいは札幌に近い、雇用のことを考えた場合に、やっぱり札幌に近いということの優位性というものがあつたのではないかと個人的には考えています。

しかし、私自身は、もともと3年前から、半導体よりもデータセンターのほうにウエートを置いて、ずっと動いていました。データセンターについてもようやく動きが出てきて、今年の秋口、遅い秋口になりますが、苫東におけるデータセンターが公表されることになろうかと思えます。

その後に来るのが海底ケーブルです。国策の半導体、それからデータセンター、それからこの海底ケーブルをこの地域で、石狩、札幌、千歳、苫小牧、アイラインという言い方もしますが、ここでも、ここで今しっかり、これからの北海道の未来戦略のために、苫小牧としてそういう対応をしていきたいというふうに考えていて、そうしたことが地域活性化につながるように、1市4町を含めて、苫小牧圏の活性化につながるように、今いろいろと動いています。

ちなみに、あしたの新聞にラピダスの関連の会社、関連というか、ラピダスと関係はないんですけど、ラピダス半導体工場ができることによる、そこにリンクをしている会社が苫東に進出するというニュースが出ます。

それやこれや、いろいろな動きがこれから出てきますので、そうした動きが地域活性化につながるように、しっかりやっていきたいと思っています。

もう一つは、雇用の心配をされる方が非常にいます。しかし、私は半導体の全く知識のない社員をどの程度の割合で採用するのか、あるいは半導体の知識をある程度持った人間がどの程度必要なのかというのはまだ全く公表されていないんですが、むしろ、今まで苫高専の卒業生の7割強が道外に流出していました。

これ、苫高専だけじゃなくて、道内4高専が同じ傾向にあります。しかし、今度、半導体とか、ビッグデータセンターとか、そういったものができることによって、高専生とか、あるいは室工大とか、あるいは北大も含めて、道内で自分の人生チャレンジしようという生徒たちが増えていく。

もう既に文科省から4高専に対して、半導体の基礎知識をカリキュラムとして構成しなさいという指示が来ておりまして、苫工も含めて、そうした時代に近づく努力をしていかなければならない。そういうことによって、今まで道外に行っていた、就職を求めた人たちが、子供たちが道内でチャレンジできるような選択肢が増えるという意味では、非常に魅力があると思うし、関心を持っています。

そうした魅力を感じるような、我々として、これからビッグデータセンター、あるいはラピダスの周辺投資、あるいは海底ケーブル等についてしっかりやっていきたいと思いますが、一方で、もう既にこのアイラインにいろんなものが集中して、新聞のシェアが大きくなると、やっぱりそれ以外の道内他地域から非常にまたクールな反応が出てきますので、そこはやはり北の大地のためにこれからどうしたらいいのかという観点から、やった、やったともう思われないうようにゲットするというのがこれから必要になっていくのではないかという空気を私自身は感じています。

◆市民 分かりました。ぜひ、よろしく願います。ありがとうございました。

○司会 その他、ございますか。なしという声がありますが。それでは、いらっしゃらないようですので、意見交換のほうは終了させていただきたいと思います。

それでは、最後に本日のまちかどミーティングの終了に当たりまして、岩倉市長よりご挨拶させていただきます。

◎市長 ご熱心なご質問をいただきまして、ありがとうございました。

一つだけ、さっき新しいハザードマップを配りました。これが、発生頻度が数百年から千年に一度あるか、ないかの地震というふうに言われています。

しかし、出た以上はそれに対する対策もしていかなきゃいけないということで、今、危機管理室を中心に、新しいハザードマップ、あるいはどうやって避難したらいいか、水平避難から垂直避難という考え方を打ち出して、それが今回のハザードマップに全部書かれています。

新しい避難先ももう既に民間の施設も含めて書かれていますので、そうしたことで万が一のときに備えている、取り組んでいる、それで十分だとは思っていませんが、ちゃんとやっています。

もう一つ気がついたことは、さっきの犬・猫の話なんですけど、そういう問題、市域内全体としてどうなのかというのがまだありませんけれども、やっぱり町内会を対象にすると会員さんにしかな情報が行かないというのはそのとおりで、そういうときこそ、広報とまこまいで、これは全戸配布ですから、毎月。

そういったことを利用しながら、やっぱり一人でも多くの市民の皆さんに、そういう犬・猫のふんで不快に思っている方がいらっしゃる以上は、毎月出している全戸配布の、我々情報源を持っているので、そういうことを何でしないのかなと思いつつ、市長として聞いていました。

それやこれやといろいろありますけれども、最後に、お礼のご挨拶は、今日一回も発言をして

いない山本副市長がお礼のご挨拶をします。

◎副市長 今日一回も発言しておりません、副市長の山本でございます。

今日は本当にいろんなご意見をいただきまして、ありがとうございます。特に津波のお話がございましたけども、実は私、昨日、全道市長会の副市長会議というのがありまして、ちょっと留萌市さんのほうにお邪魔しまして会議に出てきました。

それで、実は今回、津波想定マップの関係で、実は苫小牧のほうと釧路市さんも似たような地域になりますので、このまちの副市長さんたちとも話をしましたら、やはり釧路市さんなんかは、国道 38 号線があるんですね、あっち側。38 号線より南側の方々が津波困難地域に入っております、やはり同じです。なかなか国道を渡ることができないと。

については避難タワーなり、歩道橋ですか、そういったものの整備をお願いしたいという声があるということで、ただ、そうなりますと、やっぱり費用面ですとか、道路管理者が市ではないという様々な障壁があるわけでございます、そういったまちが苫小牧、釧路以外にもやはり、太平洋側に接しているまちというのは多々ございますけども、そういった市が一つになりまして、全道市長会もございまして、全道市長会から国等への要望として、今後も国、道に対して、支援を要望したいということで、全道市長会としての要望事項の一つに上がっておりますので、その点、私ども本市の単体の最重点要望事項にもなっておりますが、全道市長会を通して、また国、道に語りかけていくということで考えてございますので、ご理解をいただきたいと思っております。

先ほど、ラピダスのお話にもございました、隣の千歳市の副市長さんなどをお招きしていらっしやいましたけれども、やはり千歳市だけではなくて、石狩から苫小牧にわたるこの道央地帯、もしくは、先ほど市長からもお話がありましたとおり、1市4町の東胆振圏、こういったところが連携しながらラピダスの誘致に取り組んでいくということで、これ、いろいろな場面でお話をさせていただきたいところでございます。非常にチャンスではあると思っておりますので、ここは全市を挙げて取り組んでまいりたいと考えてございます。

最後になりましたが、最初のDJゼロカーボン、本当に声もよくて、市の職員じゃなくて、本当アナウンサーで食べていけるんじゃないかなという職員でございましたけども、ゼロカーボンも留萌市さんのほうで風力発電をやっておりました。非常に大きな風力発電で、2基ついていて、それで約4,000世帯分の電気、年間の電気を発電できる風力発電が整備されておりました。

苫小牧だけじゃなくて、全国的にいろんな町でゼロカーボン、再生エネルギーに向けた取組というものをされております。そういった意味では、我々の市も、大きな課題については取り組んでまいりますが、やっぱり日頃のこつこつ、まさしく「CO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub> (コツコツ) いこう」ではございませんけども、皆さんもご自分でできること、一つ一つ取り組んでいただきまして、ゼロカーボン、カーボンニュートラルに向けて、一人一人ができるようにご協力をいただければと思います。本日は本当にいろんなご意見をいただきまして、ありがとうございます。

○司会 それでは、以上をもちまして本日のまちかどミーティングを閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。